

令和2年度 学校評価報告書(自己評価書・学校関係者評価書)

令和3年2月25日作成

中期目標	重点努力目標(評価項目)	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
① 学び方改革 学習の実践的な 自ら考える	自ら学ぶ	A	A	・「自らの意志で学び続け、未来の創造に向けて動き出す子どもの育成」をテーマに取り組んだ。 ・研究授業3名、学校訪問では全授業者が、テーマに沿って授業を行った。 ・教師は、自分たちの授業の質が変わってきている手ごたえを感じ始めている。 ・生徒には、教材との出会いから自発的に問いを生み出す姿、個人追究や級友との話し合いを楽しむ姿、それらを通して考えを深めた様子がみられた。	A	・生徒の実態をよくつかみ、設定されていると思う。 ・10人いれば10通りの考えや思いがある。それをうまく伝えられない生徒ほど、活動の中に入り、学ぶ楽しさ・追究する楽しさを味わえる授業がよい。 ・1年の教訓を生かして、コロナ禍にあった授業を研究してほしい。	・本年度を足掛かりに、来年度は特に、「一人調べ」や「関わり合い活動」の研究に焦点をあてて取り組み、「問い」に対してより深くアプローチできる生徒の育成を目指す。 ・コロナ禍における学習形態を常に見直し、安心して学習できる環境を整える。
	互いに学び合う	A					
	学びを深める	A					
② みんなが参加し、みんなが輝くことができる学校	自ら気づく ～一隅を照らす	A	B	・コロナ禍において、可能な形態を模索して学校行事や学年行事に取り組んだ。学校内で行うものは全面中止したものはないが、学校外の機関との連携が必要となる行事(職場体験学習、本陣まつり等)は中止せざるを得なかった。 ・生徒の学校生活アンケートで、34問中27問で、「よい」回答が80%を超えている。なかでも「学校の雰囲気は、明るく活気があると思いませんか」は95.5%、「部活動は活発に行われていると思いませんか」は93.5%と非常に高い。一方、「自分の将来や生き方について考えることができますか」は30.8%と低い結果であった。	B	・生徒の個性や特技が生かされるよう、校内外で気をつけて指導されていて、生徒は幸せだと思ふ。 ・行事や委員会に、自分の役割を理解して真剣に取り組んでいる姿が伺えた。 ・中学生にとって将来を見通すことは大きな問題であると思う。どのようにすれば将来を考える環境を作り出すことができるか、生徒・保護者とともに考えてほしい。	・全生徒が満足できる活動を実践することは非常に難しいが、その願いをもってよりよい活動を工夫していく。生徒の特性や潜在能力を見極め、それを引き出すことができるような生徒の主体的創造的な活動を推進する。 ・生徒アンケートで自己評価の低かった「自分の将来や生き方について考えることができますか」を改善する取り組みを行う。学びを生活につなげることを教師が意識し、折に触れ、その価値について生徒に語りかける。また、保護者への働きかけを行い、家族で考える機会を設定する。
	互いに高め合う ～ワンチーム	B					
	みんなで輝く ～夢を語る生徒	C					
③ みんなが安心して、みんなが楽しく過ごすことができる学校	不登校ゼロ ～一人一人を大切に	B	B	・道徳や特活を中心に、常に「思いやり」や「感謝の心」について考える機会を設けている。 ・学期に1回、生活調査を行い、生徒の抱えている悩み事や問題の把握に努めている。そして、必要に応じて、面談を行っている。 ・生徒の学校生活アンケートで、「気軽に話ができる友達がいいますか」が「よい」回答が96.5%と非常に高い。 ・教室で過ごすことが難しい生徒が数名いる。適応教室やほっとプラザ等、それぞれ居心地のよい場所を見つけて通っている。	B	・何か一つでも自分に自信をもてるものを与えられたらよいと思う。 ・二川中学校でよかったと思えるよう細やかな指導ができることよい。 ・自分の居場所がある子は、学校で楽しく過ごすことができ、感謝したり、優しくなったりできると思う。 ・コロナ禍において、教室の安全安心は確保されているか。	・生徒と保護者が「二川中学校でよかった」と思えるよう、授業や行事の改善を図る。生徒の多様性に対応する、どのような生徒が活躍できるかを想定するなど、一人一人に目を向けた立案を行う。 ・「思いやり」や「感謝の心」を、言葉や行動で示すことができる生徒を育成する。 ・不登校生徒については、学校へ足を向けてほしいという願いをもちつつ、生徒と保護者の願いを受け止めて、「その子のために」最もよい環境を整えられるよう保護者と協力連携する。
	いじめゼロ ～心で感じ、心で動く	A					
④ 働き方改革と率先垂範「教え方の改革」の励行	・授業力の向上	A	A	・市教育委員会から委嘱を受け、学習指導の研究に取り組んでいる。研修を重ねるなかで、全教師がこの研究は自身の教師としての力量向上につながっていると実感している。 ・若手、中堅、ベテランそれぞれが持ち味を生かし、協力分担して各活動に取り組んでいる。 ・例年行っていた活動を、コロナ禍でも実践できる取り組みとなるよう、知恵を出し合った。	A	・先生方の姿や取り組み方が、子どもが楽しいと思える活動につながっていると思う。 ・真正面から生徒にぶつかっていく先生方の「かまえ」を頼もしく思う。 ・楽しいと思える授業、楽しいと思える先生は、魅力的だ。子どものやる気スイッチが自動でONになる。	・各授業や行事にかける願いや取り組みの様子を積極的に広報し、地域や保護者の理解と協力を得ながら、生徒がいよいよと通うよりよい学校の実現を目指す。 ・生徒や保護者から信頼される教師を目指し、自己研鑽と合同研修に励む。
	・人間力の向上	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】